

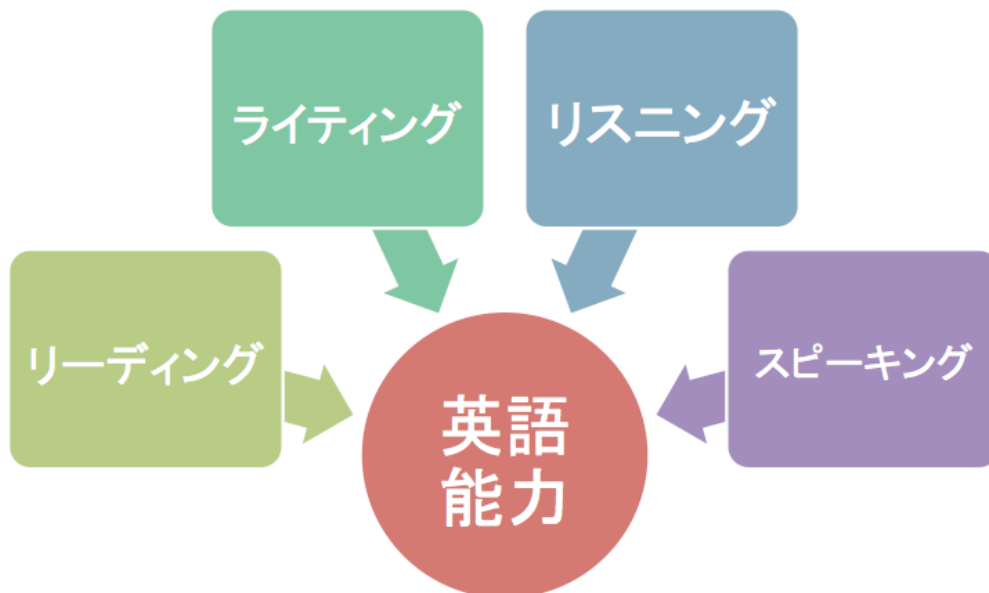
海外ビジネス成功の鍵を握る

第4弾

グローバルIQで

「語学力が伸びる資質があるかどうか測定できるか？」

グローバルIQについての人事担当者からの問い合わせとして最近増えているのが、「グローバルIQで語学力が伸びるかどうかわかりますか」というものだ。



英語能力とは主に上図の4つに分解されるという。ビジネスにおいて英語は必須だが、英語を話す人口の7割が非ネイティブスピーカーだというから、英語能力を高めるには、とにかく「実践あるのみ」。

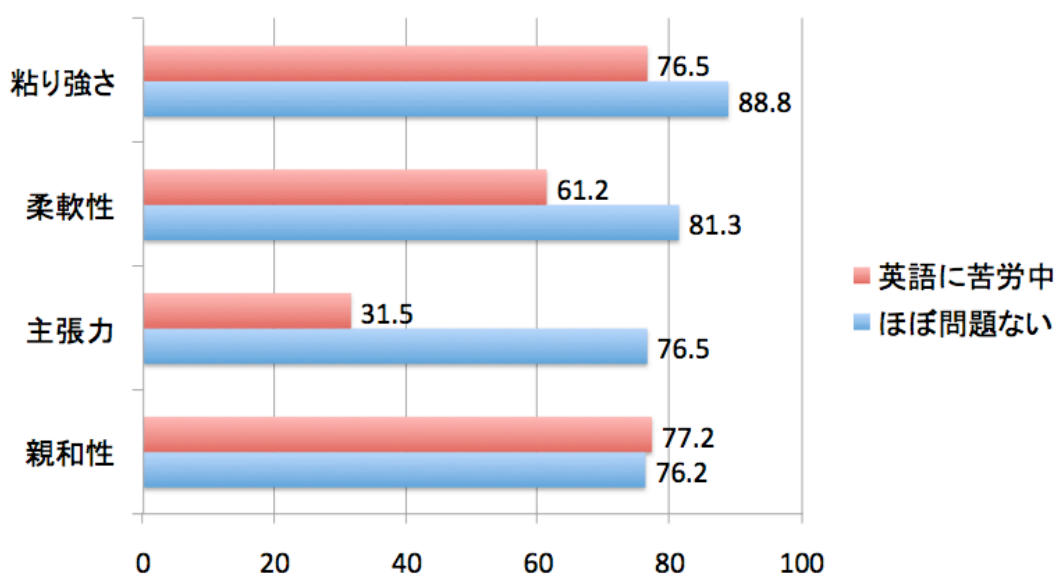
MD. ネット会員企業のビジネスマンが次のようなアドバイスをしてくれた。

- ◆英文法や構文を忘れよう。
- ◆正しく話そうと思わないこと。大事なのは、何を伝えたいかが、明確なこと。
- ◆失敗を恐れない。
- ◆聞くは一時の恥。知らぬは一生の恥。わからないことは「すぐ」「何でも」聞こう。
- ◆習得は「真似」から。
- ◆自分の仕事に必要な単語から覚えよう。
- ◆英語が話せる＝仕事ができる、ではない。英語はあくまでもツールにすぎない。

こうした意見を参考に、合成したのが英語力指数である。

「主張力」の強さが鍵？！

	ほぼ問題ない	英語に苦勞中	差
親和性	76.2	77.2	-1.0
主張力	76.5	31.5	45.0
柔軟性	81.3	61.2	20.1
粘り強さ	88.8	76.5	12.3



協調性を重んじる文化のためか、日本人はグローバル IQ でも「主張力」の指数が概して低い。裏返せば、協調性が高く、従順で謙虚とも解せるが、海外ではこれが出ることが多い。積極的な発言により、自分の存在を示し、自分の考えを聞いてもらうための環境ができる。そのために、自分の考え、主張を持つ事も必須だ。

図は、当初英語がほとんど話せなかったが赴任後の経験でほとんど英語に困らなくなったビジネスパーソン15名と、現在も苦勞している15名とのグローバル IQ の比較である。赴任後平均2.5年が経過している。英語能力を伸ばすために必要と考えられる変数を現グローバル IQ の変数から任意に抽出し、その変数の得点差を示したものである。今後、この点について、さらに多面的に分析や研究を進めていくが、今回の結果で、特に差が出たのが「主張力」だった。

自分の考えを状況や他者との関係依存的にならずに堂々と伝える能力。

もしかしたら、これが英語能力を伸ばすコアになるのかもしれない。

海外勤務適性検査 グローバル IQ はこちらをご覧ください。



<http://www.md-net.co.jp/service/giq.html>